

since.1960 History of 銅

—銅誌の歴史—

1980
日本銅センター 15周年記念号 ④



「銅 COPPER&BRASS」第26号（通算87）、昭和55年（1980）5月発行。日本銅センター15周年記念号。銅業界PR活動の創成期から日本銅センターの歴史、21世紀の銅を指向するなど、興味深い内容。後に発行される記念誌「二十五年の歩み（1989）」「50年のあゆみ（2015）」「60年のあゆみ（2024）」につながる。

1960
「プラス」創刊 ①



「プラス」昭和35年（1960）3月発行。全31号。B5サイズ。第1号～第28号は日本伸銅協会、第29号（昭和39年（1964）11月）～31号は日本銅センターが発行。第1号から連載された「銅ものがたり」は昭和42年（1967）9月単行本として出版。巻頭詩や随筆は随想・巻頭言等をへて現在のカバーロマンに継承されている。

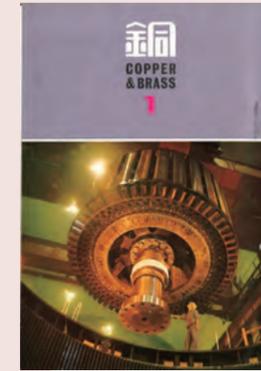


1986
「銅」発刊 ⑤



「銅 copper&brass」昭和61年（1986）10月発行。全29号（通算112～140）。B5サイズ。「銅と技術」は「銅・技術情報」として分離。「銅と衛生」「古代人の銅と音色」「銅の保存科学」「大仏料銅記」など連載物が充実。

1965
「銅」創刊 ②



「銅 COPPER&BRASS」昭和40年（1965）創刊。全30号（通算32～61）。B5サイズ。銅に関する総合PR誌として産銅・電線・伸銅品に至るまで幅広くニュースを扱う。PR研究会主催「PR誌コンクール」で5回上位入賞を果たす。

1973
「銅」
銅と生活／銅と技術 発刊 ③



「銅 COPPER&BRASS」昭和48年（1973）1月発行。全50号（通算62～111）。A4レターサイズ。従来の「銅と技術」（昭和40年（1965）1月創刊）を合併し「銅と生活／銅と技術」として裏表両面から読むことができる。表題の題字は女流書道家望月美佐氏による。オイルショックの影響で第13号～第16号はカラーページ無し。

1995
「銅」発刊 ⑥



「銅 COPPER&BRASS」平成7年（1995）9月発行。発行中（通算141～）。A4サイズ（オールカラー）。平成10年（1998）2月発行号より号数を「プラス」からの通算に変更、第146号とした。銅1号（141）から第189号まで「銅の歴史物語」を掲載。新型コロナウイルス感染症蔓延により取材活動が制限されるなか第190号・第191号を発行。

昭和23年（1948）4月1日、日本伸銅協会が設立され、昭和34年（1959）4月日本伸銅協会PR委員会が発足し、昭和35年（1960）3月1日、PR誌「プラス」を創刊。昭和39年（1964）9月4日、日本銅センター発足により日本伸銅協会のPR活動は発展的に日本銅センターに移行し、日本銅センターPR委員会により事業が継承されるに至った。

日本における銅産業のPR活動は、産銅会社の団体である「水曜会」が大正11年（1922）に銅製品の需要振興について具体的な活動を行うため、「銅真鍮研究会」をつくり、銅の需要調査の目的も兼ねてスタートした。定期刊行物として「銅真鍮時報」を発行し、銅製品のPR活動を始めた。昭和12年（1937）11月「銅真鍮研究会」並びに、「水曜会」は解散、PR活動は終止符を打つに至った。



●題字制作のことは
銅
日本銅センターからの依頼で「銅」という字を本の題字として書いた。以前から金剛板に文字を書いて見たいと思っていた。今回、銅という文字の制作にあたってまず考えたことは、金でも銀でもない銅のよさを出すことだった。銅からの連想は、銅という金属の質感とか、あたたかさとは別に、文字として銅のリズムと重厚さであり、洗練でなく荒々しさを強に引き出すこと。使った筆はネズミのヒゲで作ったもので、これは中国特産である。<望月 美佐>

200号記念号
2026

「銅」発刊 ⑥
1995

「銅」発刊 ⑤
1986

「銅」銅と生活／銅と技術 発刊 ③
1973

「銅」創刊 ②
1965

「プラス」創刊 ①
1960



2020
新型コロナウイルス感染症蔓延
取材活動が制限

1998
号数をプラスからの通算に変更

1976
オイルショックの影響で
カラー無し

1973
「銅」題字制作

1964
日本銅センター発足に伴い、29号から日本銅センターが発行

1967
「銅のものがたり」出版

2024 「60年のあゆみ」発行
2015 「50年のあゆみ」発行

1989
「二十五年の歩み」発行

1980
日本銅センター15周年記念号 ④